

## 薬剤耐性菌ってナニ？

最近はお子さんか風邪で受診しても、抗菌薬が出ることは少なくなってきたと思います。

さて、薬剤耐性菌とは、読んで字のごとく薬に耐性（薬が効かない・効きにくい）がある菌のことです。どうしてそんな耐性が出るかということと大きく2つ理由があります。

（参考：AMR臨床リファレンスセンターホームページ）



## ◎抗菌剤から身を守る！

抗菌薬は、菌にとって猛毒なので、なんとかその毒から身を守ろうと工夫します。

工夫の色々・菌自体を覆っている膜を変化させて、薬が入って来づらくする（外膜変化）・菌に入ってきた毒を外に汲み出してしまう（排出ポンプ）・菌の中で抗菌薬が作用する部分を変化させ、いざ抗菌薬が入ってきても効果が出ないようにしてしまう（DNAやRNAの変異）・菌に届く前に化学反応で分解してしまう（ベータラクタマーゼ）・大量のネバネバ液で菌自体を覆い、薬から身を守る（バイオフィルム）

これらの工夫は、もともと菌が持っている働きだったり、他の菌から譲り受けたり、抗菌薬によって誘導されたりします。



## ◎菌どうしのバランス

人間の体の中にはとても多くの種類の菌が住み着いており、いつもはお互いにバランスを保っています。その中で耐性を獲得しようとする菌は細々と生きていることが多く目立たず少数派です。しかし、抗菌薬が投与されることで、大多数の耐性を持たない菌が一気にいなくなった時、どうなるでしょう。少数派だった耐性を得ていた菌がのびのびと増えることが出来るようになります。抗菌薬が色々な菌に効けば効くほど、耐性菌を抑えてくれる菌が減ってしまい、体に必要な菌もいなくなってしまう。また、耐性菌でも十分な抗菌薬を使えば死んでしまうものもいるのに、途中で抗菌薬を止めてしまうことで「耐性菌に甘く、耐性を持たない菌に厳しい」状態になってしまいます。

体の中の見えない世界の話ですが、薬についての不安や質問があるときは、まずは薬剤師にお尋ねください。また、お子さんの免疫力を高めるための行動（例えば十分な睡眠をとる等）を親の皆さん自身も手本としてなさっていたらいいと思います。

おくすりは  
正しく服用してください。

